



TITLE:

赤色と黄色の二個の腫瘤よりなる副腎骨髓脂肪腫の1例

AUTHOR(S):

兼松, 明弘; 小倉, 啓司; 荒井, 陽一; 竹内, 秀雄; 吉田, 修; 山辺, 博彦

CITATION:

兼松, 明弘 ...[et al]. 赤色と黄色の二個の腫瘤よりなる副腎骨髓脂肪腫の1例. 泌尿器科紀要 1994, 40(2): 127-130

ISSUE DATE:

1994-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115203>

RIGHT:

赤色と黄色の二個の腫瘤よりなる副腎骨髓脂肪腫の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 吉田 修教授)

兼松 明弘*, 小倉 啓司, 荒井 陽一

竹内 秀雄, 吉田 修

京都大学医学部附属病院病理部 (主任: 山辺博彦助教授)

山 辺 博 彦

A CASE OF ADRENAL MYEOLIPOMA CONSISTING OF TWO MASSES WITH DIFFERENT RED AND YELLOW COLORS

Akihiro Kanematsu, Keiji Ogura, Youichi Arai,

Hideo Takeuchi and Osamu Yoshida

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

Hirohiko Yamabe

From the Department of Pathology, Kyoto University Hospital

A 52-year-old woman with asymptomatic gross hematuria visited a hospital, where computed tomography and ultrasonography revealed a left suprarenal mass, which was diagnosed as adrenal myelolipoma. After two years observation, she was admitted to our hospital due to enlargement of the tumor, and left adrenalectomy was performed. The tumor consisted of two separate masses with different macroscopic appearances. One was type I, while the other was type II according to Soos' classification. We found no similar case in the literature.

We added a review of 119 cases of surgically resected adrenal myelolipoma in Japan.

(Acta Urol. Jpn. 40: 127-130, 1994)

Key words: Adrenal myelolipoma, Soos' classification

緒 言

副腎骨髓脂肪腫は比較的稀な良性腫瘍であるが、われは特異な形態を呈した1例を経験したので若干の文献的考察を加えてこれを報告する。

症 例

患者: 52歳, 女性

主訴: 肉眼的血尿

家族歴: 母親に子宮癌

既往歴: 1988年より高血圧 (食事療法のみ)。子宮筋腫および胆石にて手術歴あり。

現病歴: 1989年, 肉眼的血尿を主訴とし近医受診, 腹部 CT にて最大径 8.5 cm の左副腎腫瘍を指摘された。内分泌学的に非活動性の腫瘍で, 血管造影で avascular であることと CT 所見より骨髓脂肪腫と

診断された。以後, 定期的に CT にて経過観察されていたが, 1991年2月, 腫瘍の増大傾向を認め, 当院内科を紹介受診。さらに同年5月, 手術目的にて当科入院した。

入院時現症: 身長 150.5 cm, 体重 55 kg とやや肥満傾向。血圧 122/58, 脈拍82。左上腹部に腫瘤を触知した。

検査成績: 血清中アドレナリン 51 pg/ml, ノルアドレナリン 470 pg/ml, 尿中 VMA 2.3 mg/day, アドレナリン 3 µg/day, ノルアドレナリン 106 µg/day, メタネフリン 0.11 mg/l, ノルメタネフリン 0.04 mg/l。血中コルチゾール 6.7 µg/dl, ACTH 34.3 pg/ml, 尿中 17KS 4.7 mg/day, 17OHS 1.5~7.8 mg/day。1 mg デキサメタゾン抑制試験にて 1 µg/dl に抑制。rapid ACTH 試験によるコルチゾール, アルドステロンの反応, ランクス負荷試験によるレニン, アルドステロンの反応はともに正常。75 gOGTT にて血

* 現: 国立姫路病院泌尿器科

(Fig. 2). ^{131}I アドステロールによる副腎シンチグラフィでは左副腎の取り込みが右側に比べ減少していた。

以上の所見より, 左副腎骨髓脂肪腫と診断され, 1991年5月11日全麻下に左副腎腫瘍摘出術を施行した。術中迅速病理診断では骨髓脂肪腫の診断であった。

組織学的所見: 摘出腫瘍の外観は, 大小二つの互いに色調の異なる mass が接し合うような形態をとっていた。二つの腫瘍は, それぞれ $13.0 \times 12.5 \times 9.0$ cm, 540 g, $9.0 \times 6.5 \times 5.5$ cm, 110 g. 色調はそれぞれ暗赤色, 黄色で, 黄色の腫瘍の中に一部軟骨様の組織を認めるほかは均一な色調であった (Fig. 3)。

組織学的には, とともに成熟した脂肪組織と正常の造血系細胞とからなっており, 副腎骨髓脂肪腫と組織学的に診断された。上方の腫瘍は比較的脂肪組織を多く含み一部に骨梁形成が認められ, 下方の腫瘍は骨髓組織を比較的多く含んでいた (Fig. 4)。この二つの腫瘍に挟まれるようにして正常の副腎組織がわずかに残存しており二つの組織を隔っていた。電顕所見では骨髓組織は, 分葉した顆粒球系の細胞と, 各種の成熟段階の赤芽球系の細胞とを含んでいた。

考 察

副腎骨髓脂肪腫は正常の造血系細胞と脂肪組織とよりなる良性腫瘍であるが, 近年偶発腫瘍としての報告が増加している¹⁾。

本邦では自験例を含めて119例の外科的切除報告がある²⁾。男女比は60:59で, 従来の本邦の報告ではやや男性での発生が多いとしているのに対して³⁾ 性別差を認めなかった。発生年齢のピークは男女共に50代にある。このうち右側86, 左側28例, 両側5例と, 右側の切除報告例が比較的多いが, これは肝胆道系の超音波検査によって偶然発見されることが多いためと考えられる。摘出腫瘍の平均重量を比較すると右側 275 g に対して左側 418 g と左側の方が大きな腫瘍が摘出されている事実はこの推測を裏づけていると思われる。本症の合併症としては, 肥満, 高血圧, 糖尿病が高頻度に見られることが知られており⁴⁾, 本邦報告例でもそれぞれ34例 (28.8%), 18例 (15.2%), 10例 (8.5%) の報告をみた。

自験例において腫瘍は, 色調がたがいに異なり肉眼的にも別の腫瘍のように見える二つの部分からなっており, それがわずかに残った副腎の正常組織をはさむようにして存在していた。Soos⁵⁾ は本症をⅠ型: 表面が橙色で, 組織学的にはおもに脂肪組織と eryth-

roid 系細胞とからなるもの, およびⅡ型: 表面が赤褐色または暗赤色で, 組織学的にはおもに myeloid 系の細胞からなるものに分類しているが, 自験例の2個の腫瘍はこの2型のおおのに属すると考えられる。この2型を本邦報告例について臨床的に比較すると, 発生頻度はこの2型の混在型が最も多く, Ⅱ型単独のものはⅠ型単独のもの約半数であった。またⅡ型では重量 100 g を越える腫瘍は8.3% (1/12) とⅠ型の61.1% (11/18), 混在型の72.7% (16/22) と比較して非常に少なかった。このためか腫瘍の自然破裂により発見された症例はいずれも後二者の型をとっている⁶⁾。本例ではⅠ型とⅡ型の成分が混在ではなく別個の腫瘍を形成していた。これは, 副腎に同時多発した2個の骨髓脂肪腫がおおのの組織型で増殖したと考えられる。CT および MRI でこれら2つの組織型の微妙な差異は識別可能であった。このような形態をとるものは文献上類例を見なかった (Table 1)。

Table 1. The incidence of adrenal myelolipoma according to Soos' classification.

	Solitary	Bilateral	Unilateral multiple
Type I	21	1	1
Type II	12	0	0
Type I, II (mixed)	29	1	0
Type I, II (each)	0	0	1*
	62	2	2

* Present case

結 語

52歳女性に発生した副腎骨髓脂肪腫の1例を報告した。摘出標本は Soos の分類でそれぞれⅠ型とⅡ型に属すると考えられる2つの腫瘍よりなっていた。

本論文の要旨は第135回泌尿器科学会関西地方会において報告した。

文 献

- 1) 佐藤郁朗, 林 仁守, 小笠原鉄郎, ほか: 超音波検査が診断に有用であった adrenal myelolipoma の2例. 超音波医 10: 414-418, 1983
- 2) 野内文雄, 菅野孝一: 副腎に発生した巨大な myelolipoma の1例. 福島医学 10: 445-465, 1960
- 3) 篠原靖志, 竜 崇正, 渡辺一男, ほか: 脂肪変成を伴った肝癌と鑑別困難であった副腎骨髓脂肪腫の1例. 日臨外医会誌 50: 2671-2675, 1989
- 4) Plaut A: Myelolipoma in the adrenal cortex. Am J Pathol 35: 541, 1986
- 5) Soos J: Zur nebennieren pathologie VI. Über Wucherungsherde roten und gelben

Knochenmarks in der Nebenniere. Beitr Z
Pathol **85**: 611, 1930

- 6) 橋本雅司, 西 常博, 久保琢自, ほか: 腫瘍内出血による急性腹症で発症した副腎 **Myelolipoma**

の1例. 日臨外医会誌 **51**: 177-183, 1990

(Received on February 4, 1993)
(Accepted on September 2, 1993)